

Rapidus 千歳での最先端半導体工場の建設を開始

Rapidus 株式会社（本社：東京都千代田区麴町 4 丁目 1 番地、代表取締役社長：小池淳義）は、北海道千歳市において、最先端半導体の開発および生産を行う工場の建設に向け、必要な準備を開始しますのでお知らせいたします。

このたび、経済産業省及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から当社の 2023 年度の研究開発プロジェクト(※1)の計画・予算が承認されたことを受け、自治体および関連事業者と連携し、活動を開始します。

また、4 月より、世界最先端の半導体研究拠点の一つである米国ニューヨーク州の Albany Nanotech Complex に当社の研究員を派遣し、IBM との協働による研究開発に着手しました。以上の施策により、2 nm ノード技術開発を行い、国内短 TAT パイロットラインの構築と、テストチップによる実証を行っていきます。

当社は、IBM や imec 等との国際連携を通じて、最先端のロジック半導体の技術開発を進めるとともに、千歳での最先端半導体工場の建設に取り組み、研究期間終了後は、その成果をもとに先端ロジックファウンドリとして事業化を目指します。

(※1)この事業は、N E D O の委託事業「ポスト 5 G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／先端半導体製造技術の開発／日米連携に基づく 2 n m 世代半導体の集積化技術と短 T A T 製造技術の研究開発」として実施しています。

以上

Rapidus 株式会社の2023年度の計画・予算の承認に関する知事コメント

本日、Rapidus 株式会社が、国の「ポスト5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」を活用し、北海道千歳市において進める次世代半導体の製造拠点の整備事業について、本道における過去最大の投資規模に匹敵する2,600億円を支援上限とする2023年度の計画・予算が承認されました。道としても、連携して取り組んできたところであり、この度の承認を大変うれしく思います。

これにより、いよいよ千歳市におけるパイロットラインの基礎工事が始められることに加え、研究者の育成や、量産化に必要な装置・各種システムの開発も本格化することとなり、世界最先端・最高水準の半導体を北海道から世界に届けるという、前例のない壮大なプロジェクトの実現に向けて、大きな一歩を踏み出すこととなります。

道としては、2025年のパイロットライン完成、2020年代後半の量産製造の開始に向けて、全庁的な推進体制として「北海道次世代半導体産業立地推進本部」を立ち上げ、新たな組織として「次世代半導体戦略室」を設置したほか、国や千歳市と密接に連携しながら効果的・機動的な取組を進めるための連携会議を開催したところです。

今後も、一緒に挑戦していくパートナーとして、同社と事業計画を共有しながら、用地や用水、電気などインフラ整備や人材確保など多岐にわたる課題への対応に、これまで以上にスピード感を持って取り組んでいくため、サポート体制を強化してまいります。

また、次世代半導体の製造に加え、研究、人材育成が一体となった複合拠点の実現に向け、製造装置や素材といった関連産業等の集積はもとより、道内企業の取引参入やデジタル人材拠点の形成に戦略的に取り組むなど、その効果を全道に波及させ、本道経済の活性化につなげてまいります。

令和5年4月25日
北海道知事 鈴木 直道

Rapidus 株式会社の2023年度の計画及び予算の承認に関する市長コメント

本日、Rapidus 株式会社は、国の「ポスト5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」を活用した、2023年度の計画及び予算が承認されました。

このことにより、世界最先端技術による半導体製造工場の建設がいよいよ動き出すこととなります。

本市としましては、立地場所選定において評価いただきました産業インフラや自然環境の優位性、さらには、新千歳空港を擁し、世界に至近という本市ならではの特性を十分に活用していただき、世界中に注目される施設となるよう、必要な環境整備を進めてまいります。

また、今後、ラピダス社の事業活動が、将来にわたり本市において展開することで、様々な企業にとってビジネスチャンスとなるほか、有為な人材が集まり、本市のみならず北海道全体の活性化につながるよう、国や北海道とも密接に連携しながら、まずは2025年の試作ラインの稼働、さらには2020年代後半の量産化に向けて、引き続きスピード感と熱意をもって、積極的に取り組んでまいります。